

【高校生の部】 未来賞

「未来への約束」

湘南白百合学園高等学校 1年 いがらし 五十嵐 さあや 咲絢

私は昨年、学校の総合学習の中で大気汚染をテーマに選び、大気汚染が植物の葉に与える影響について実験・調査を行った。その結果、大気汚染の主な原因となる窒素酸化物や硫黄酸化物は、自動車や工場が発生源だと考えられており、車の排気ガス中や発電・エネルギーとして使われる石油・石炭・天然ガス等の化石燃料の他、産業や私達の生活から出る大量のゴミを燃やした時に排出される二酸化炭素は、地球温暖化のもととなることから、こうした各種の環境問題は、個別に発生しているのではなく、繋がっていることが、よく分かった。この繋がりを厄介と捉えればそれまでだが、私は、何か一つでも突破口を見つけ、負の連鎖を断ち切れれば、少しずつでも地球温暖化をはじめとする様々な環境問題の改善・解決へと近づけるのではないかと考え、学生の私なりに出来ることを実践している。

まず一つ目は、なるべく自家用車を使わず徒歩や公共の交通機関で移動することだ。自動車各社の研究と努力は素晴らしいものだが、車の利用が地球温暖化の一因となることは紛れもない事実だ。自宅から最寄り駅まで、慌ただしい朝は正直、車で送ってもらいたくなってしまう。しかし、そうして車の利用が増えれば、必然的に二酸化炭素排出量も増える。私一人の行動なら大差ないはず、という甘い認識が、地球環境の改善を阻む結果になりかねないのだ。その為私は、毎朝駅まで歩くことにしている。朝の空気は、一日の中で最も季節を感じさせてくれると私は思う。また、うっかりのんびりしていると、朝から強制ランニングする羽目になるので、徒歩の時間を考慮し、起床から自宅を出るまでの流れを自分で考えながら計画的に行動する習慣も身に付き、実に「一石三鳥」と言える。

そして、二つ目に取り組んでいることは、ゴミの削減だ。エコバッグや水筒の持参、省包装の選択、物を大切に長く使う、制服を後輩へ譲る、食べ残さない等、学生でも出来ることは沢山ある。また、自分達がどのくらいゴミを出しているかを気にかけるようにもしている。そうすることにより、食材を無駄にしない、食べ残さない、ゴミになるような過剰な包装は避ける、よく考えずに買うのはよそう、と自戒の念を改めて持てるようになると思うからだ。私は、以前あるお店で働く知人から、次のような話を聞いた。

「お店で買った物をすぐ使う為に取り外したパッケージの持ち帰りをお客様にお願いすると、不満気だったり、中には怒る人もいるから、結局お店側が、取り外したパッケージを引き取って、ゴミを分別して捨てる方針に変えた。」

これは、気の利いたサービスに聞こえるかもしれない。しかし私は、便利さを重んじ、自分の目の前からゴミがなくなって満足するこの姿勢は、ゴミ増加に繋がり、その焼却のために大気汚染や地

球温暖化を助長させると考える。自分で出したゴミは自分で持ち帰って分別し、自分が一日でどのくらいゴミを出しているかを把握することも、ゴミ削減と、その先の地球環境改善への大事な一歩なのだ。

また、日本における家庭系食品ロスは増加している。2016年度国内食品ロスは643万tで、これはWFPが世界で行う年間食料支援の二倍に迫る量を捨てている計算になる。ところが、日本は、これほどの食べ物を無駄にしているにも関わらず、食料自給率が低い為、海外から多くを輸入しており、輸出用のエビ養殖場建設でマングローブが伐採され、環境破壊が進んだ例もある。利潤追求・経済発展第一主義のもと環境破壊を続けて地球温暖化が進み、近年の世界的気候変動を招いた結果、洪水や干ばつで農作物を収穫出来ない土地が増えた。それに加えて、私達が必要以上に食料を輸入し続けることで、途上国の食料価格が高騰し、人々が食料を得にくい状況を作っている現実もある。つまり、私達の消費スタイルは、地球温暖化のみならず、その先の食料不均衡や飢餓問題にも深く関わっており、非常に切迫した状態なのだ。私達は、この地球規模の課題への悪影響を真摯に受け止め、安易な購入、廃棄の自製の必要性和責任を痛感した上で、より積極的に対策に取り組むべきではないだろうか。

最近やっと「3R」という言葉自体は定着しつつあるように思う。一方で、日本全体で見ると、便利さや手軽さ等が優先され、「大量生産・大量消費・大量廃棄」のサイクルからなかなか抜け出せずにいる現状があることは否めない事実だ。問題解決は、便利さや快適さとは真逆の方向にあるかもしれない。しかし私達は、自分達の消費の在り方が、地球温暖化等の環境問題や飢餓といった、現在国際社会が抱える重大な課題と密接に関係していることを自覚し、当事者意識と責任感を持って、技術開発だけでなく、私達自身の意識とライフスタイルの改革という根本に立ち返り、地球温暖化対策に取り組むべき時が来ていると言えよう。

もし、私の作文を読んで下さったあなたが、この内容に少しでも賛同して下さるなら、ぜひ約束して頂きたい。自分だけなら大丈夫、という気持ちを捨てることを。そして、自分に出来る対策をコツコツ続けていくことを。個人の力は小さいかもしれない。しかし、良くも悪くも「塵も積もれば山となる」のだ。各自が自分の行動を律して努力を続ければ、その力が合わさって、やがて実を結び、現在悲鳴をあげている地球を救い、青く美しい地球を未来へ繋ぐことが出来るはずだ。

誰一人、どの種も取り残さず、地球とそこに宿る全てのかげがえのない命を守る為に果たすべき私達の役割。それは、地球温暖化という全世界が取り組むべき問題を自分のこととして捉え、自分に何が出来るか主体的に考えて行動に移していくことだと考える。そして、これからの世界を担う世代の一人として、今後も私なりの努力と取り組みを続けながら、その役割と責任を積極的に果たしていこうと改めて強く心に誓った。